

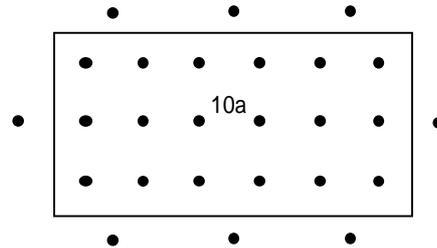
## 交信攪乱剤利用によるキャベツのコナガ防除

交信攪乱剤（アルミゲルア・ダイアモルア剤、商品名：コナガコン - プラス）を利用することでコナガの発生密度が抑制され、殺虫剤散布回数の削減が可能である。

### 【交信攪乱剤の設置】

100本/10aをコナガが飛来し、産卵を開始する前に設置する。

コナガの発生を抑えきれない場合、他害虫が発生した場合には化学合成農薬による防除を実施する。その他利用上の注意点については、平成15年度岩手県農作物病害虫雑草防除基準を参照する。



はディスペンサーを取り付けた棒（写真参照）  
ディスペンサー4本/棒として取り付けた場合、10a 当たり  
に必要な棒の本数は約25本となる。約8割を圃場内に約2割  
を圃場周縁に設置する。

図1 交信攪乱剤設置圃場とディスペンサー取り付け例

### 【現地実証事例】

岩手県西根町における事例（作型：6月中旬定植・9月上旬収穫、圃場面積3ha）では、慣行防除とほぼ同等の被害率で殺虫剤散布回数が約3割削減できた。

表1 交信攪乱剤利用による殺虫剤散布回数の変化と収穫時被害株率の比較

	慣行防除	交信攪乱剤利用
A 農家		5回
B 農家		5回（定植時粒剤 + 4回）
C 農家	7回（定植時粒剤 + 6回）	4回
D 農家		4回（定植時粒剤 + 3回）
平均	7回	4.5回
収穫時被害株率（虫害）	3.3%	1.5%

殺虫剤散布要・不要の判断は個々の農家が害虫（コナガ、アブラムシ、タマキコウガ、モンシロチョウ、ヨトウガ等）の発生状況を観察して行った。

表2 交信攪乱剤を利用した場合の10a当たり経費計算の例

慣行防除より増加する経費	交信攪乱剤購入経費		散布削減回数				計
	1	2	1回	2回	3回	4回	
設置労賃（取り外しを含む）	1	1人×0.8h/10a×¥1,382/h = 1,106円					9,106円
慣行防除より減少する経費							
2	3	減少する殺虫剤費用	2,493円	4,986円	7,479円	9,972円	
経費増減	-		6,613円	4,120円	1,627円	866円	

1 労賃単価はH8県農政部生産技術体系（キャベツ9月どり）により算出した。

2 散布が省略できれば散布労賃も減少するが、現状では殺菌剤と同時散布を行っている場合が多い為、散布労賃の減少については考慮していない。

3 殺虫剤費用は西根町キャベツ防除暦（岩手地域普及所）の1回当たり平均殺虫剤費用とした。